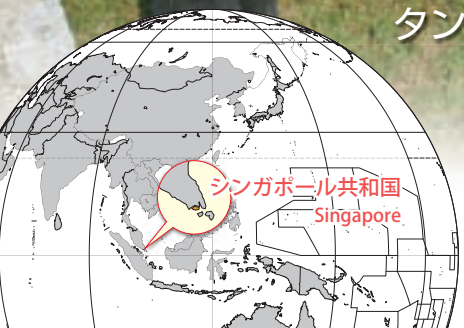




違う国、同じ情熱

教員研修留学生

タン・シュー・リー



友達と行った祇園祭り

環境の違い

文部科学省の教員研修留学生として日本へ留学しに来てからもう一年になりました。未だに今の日本の生活を夢と勘違いしてしまうときがあります。私はシンガポールで七年間教師の仕事をしていました。学生にまた戻って研修する機会を持てたことに感謝しています。その上、若い時からずっと大好きな日本に留学出来て、とても幸せだと思います。

みやすいですが、ちよつとつまらないと思います。私の母国に比べて、日本の四季は本当に面白いです。各季節はそれぞれの特徴をもっており、楽しむことができます。例えば、秋の紅葉、冬の雪、春の桜、夏の蟬などです。すべてが美しくてシンガポールでは見ることができないものです。楽しく奈良で過ごすことで、季節ごとに必要となる物を買うことにも慣れてきました。その上、歴史ある奈良市に住んでいて、いつでも世界遺産や大自然、可愛い鹿を見ることが出来ます。幸運な私の留学生活は思い出が一杯で忘れられない経験です。

不安と焦りの授業の始まり

私は日本で第2外国語としてフランス語を勉強してきましたが、他大学のフランス語学科の学生や、ホームステイ経験のある学生とはあまりに力の差があることを当初から身をもって知ることとなりました。9月の留学生の説明会や授業では先生の言っていることが全く分からず、フランス語学科の友達たちに毎回尋ねていました。授業中は不安と焦りでこの一年間本当にやっていけるのだろうか？ということばかり考えていました。しかし悩んでいても仕方がない上、少しでも皆に追いつきたいという思いから、毎週火曜日の文法の授業が終わり次第、日本語学科の

フランス人の友達を呼んで授業で分からなかったこと、そして宿題の分からないところをお互い徹底的に勉強しました。この勉強方法はお互いの為になるので、フランス語を上達するための近道なのではないかなと思いました。

留学の目的である美術の知識を得るために

私にとってこの留学で学びたいことはフランス語の文法全般、発音、そして何といても美術の知識でした。そこで、後期は必修以外では15世紀のイタリアなどの美術の授業と美術の入門の授業に出ていました。美術の授業は絵画だけで

留学生 レポート



留学体験記

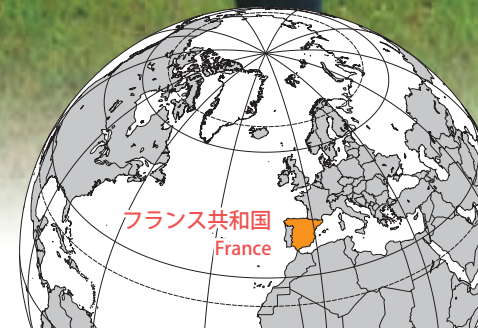
～Lyonでの10ヶ月～

学校教育教員養成課程 身体・表現コース

美術教育専修4回生

(大阪府立池田高校出身)

品野 由美子



なく彫刻や建築、映画などが取り上げられ大変興味深かったです。美術史に関する本なども読み、美術の知識がより一層深まりました。

前期の終わり頃からインターネットを使ってフランスのラジオを聴くようになりましたが、それでも聞き取りの力が身についたとは感じません。もつとフランス人と交流を持って、毎日一緒にいれば良かったなと少し後悔しています。もつと言うなら、文法などの勉強は授業で嫌でもせざるを得ないので、リスニングの練習だけは日本にいたときからやっておくべきだと感じました。

また、イタリアのローマとフィレンツェを訪れ、授業で出てきた作品を直に鑑賞することができました。ヨーロッパに留学するとこのように本物の美術作品を生で見ることができるので、これもまた大きなメリットだと思っています。

フランスとの繋がりを続けるために

挫折から始まった私の留学生活は、多くのフランス人に助けられ最後を迎えることができました。この1年間は机に向かった勉強だけではなく、フランス人の友達と遊んだこと、彼ら



休日を利用して美術作品を巡る旅

人々の同じ情熱

日本に来てからたくさんの人に助けられ、日本の人々の温かさを感じました。大学の先生、留学生担当職員、チューターやホストファミリーの皆さんはいつも喜んで手伝ってくれます。様々なボランティア団体も留学生の為にいろいろな活動を行ってくれます。日本人のクラスメイトも他の国からのクラスメイトも仲良くやっていて、お互いに学び合います。道に迷っている時も旅行している時も、親切な日本人は簡単な日本語と英語で会話して手伝ってくれます。

日本で教師になる道はシンガポールより長くて大変だと思います。シンガポールでは教育大学がありません。教師になりましたら、初めに教育部に教師の申し込みが必要です。申し込み

後、契約を交わすことで、教育専門学校に入ることが出来ます。教育専門学校で勉強している時は、給料を得ることが出来ます。もちろん、学費は必要ありません。卒業した後、教育部が卒業生を欠員の学校に派出し、そして、卒業生は契約の内容に従って勤めます。

シンガポールでは英語が第一言語で母語以外の科目は英語で教えられています。シンガポールでは英語を使う事が多くて英語がうまくなるのが早いです。日本では英語はあまり使わないですから、英語の教師になるということとはとても大変な事だと思います。私はこの研修を通じて、先生とクラスメイトの皆さんからいろいろなことを習ったので、国に帰って今より良い教師になれると思います。皆さん、一緒に頑張らしましょう！